

## 副専攻プログラム説明書

開設学部（学科）名〔生物生産学部（生物生産学科）〕

プログラムの名称	(和文) 生物圏環境学副専攻プログラム
	(英文) Integrated Ecoscience
<p>1. プログラムの紹介と概要</p> <p>私たち人間活動の営みは、生物圏いわゆる「海と大地の恵み」によって支えられています。生物圏環境学副専攻プログラムでは、1) 植物の生産とそれを支える土壌の構造や機能、2) 水域の環境や底次生産生態系の構造と機能、3) 人間の食料生産の営みと社会システムを学ぶことを通じて、環境と調和した食料生産、資源の循環と有効利用、生物圏の食料・生物生産と環境保全とを両立させうる技術、食料生産のための資源管理や流通の仕組みについて理解を深め、生物圏の持続的な発展について学びます。</p>	
<p>2. プログラムの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境と調和した持続的な食料生産や生物圏の環境保全に関する基礎を修得することを目的とします。</li> </ul>	
<p>3. プログラムの履修時期・要件</p> <p>(1) 履修開始時期とプログラム登録時期</p> <p>プログラムの履修開始時期は3セメスターからです。また、プログラムの登録は、履修開始前（事前登録）とします。</p> <p>(2) プログラム選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)</p> <p>本プログラムは、本学のすべての学生に開かれています。本プログラム選択のための既修得要件はありません。</p> <p>(3) 履修上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食料生産や環境に興味を持っていることが必要条件です。</li> </ul>	
<p>4. 教育内容・構造</p> <p>本プログラムでは、別添履修表に示す「教養教育科目」、「専門基礎科目」を履修することにより、生物資源と食料生産、バイオテクノロジー、生物環境の保全に関する基礎知識を修得した後、6つの教育科目（海洋生態系評価論、水域循環制御論、植物栄養生理学、植物環境分析学、食料生産管理学、食料市場学）に所属する教員が実施する専門科目において専門知識と応用力を養います。</p>	
<p>5. 授業科目及び授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業科目は、別添の履修表を参照すること。</li> <li>・授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。</li> </ul>	

6. 評価

(1) 試験・成績評価

各授業科目における試験・成績評価基準に基づく。

(2) 修了判定の基準

5. 授業科目及び授業内容」に示す授業科目のうち、16単位を修得すること。

7. プログラムの責任体制

生物圏環境学副専攻プログラム担当教員会

8. プログラムの受入上限数

10名

9. プログラムの既修得単位等の認定単位数等

(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等

8単位

(2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等

8単位

**【副専攻プログラム履修に関する注意事項】**

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した副専攻プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○副専攻プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

生物圏環境学副専攻プログラム履修表

区分	授業科目	単位数	履修期	要修得単位数
教養教育科目	生命・食・環境のサイエンス	2	3	2
専門基礎科目	食料資源論	2	4	2
	生物環境学	2	3	2
専門 科 目	食料循環経済学	2	6	このうちから10単位以上
	食料生産管理学	2	6	
	食料流通学	2	7	
	地域農業組織論	2	6	
	浮遊生物生態学	2	6	
	生物海洋学	2	7	
	水域物質循環論	2	5	
	海洋環境学	2	7	
	環境土壌学	2	6	
	土壌機能管理学	2	7	
	植物栄養生理学	2	6	
	植物環境生理学	2	7	
	生物圏環境学特論Ⅰ	1	6	
生物圏環境学特論Ⅱ	1	6		
合 計				16